

移住家族による中山間地の空き家リフォーム。解体した母屋の跡地にできた庭、それを建物に引き込む土間や「小下がり」など、小さな子どもたちがのびのび成長できる環境が生まれている。おおらかな住まいだが、手の触れる部分は丁寧につくり込まれてもいる。

リフォーム前後の写真

Before



a. 母屋と離れの通路



b. 離れ 南東側



c. 母屋により採光が不十分



d. 既存の梁や架構を残す



1. 小下がり 庭へ開いた開口と暖炉を中心に集めれる居場所



2. ダイニング 既存梁を活かし、庭と連続する空間

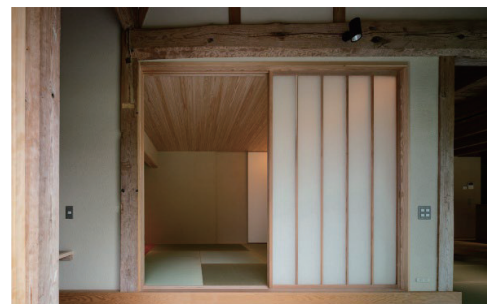


3. 玄関 造作棚と框

After



4. 階段下本棚 間仕切壁を全面本棚にし緩やかに仕切る



5. 和室 柔らかな光を取り込む



6. 玄関 焼杉の深い質感と木製建具の温かみ



7. ダイニング 小下がりと連続し、家族が自然と食卓を囲める



8. 南東側外観 連続した開口と土間によって庭と連続した空間

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／社会や地域の課題解決に資する取り組み等、審査基準に適合することを示す具体的内容

<リフォームの動機> 敷地内には母屋・離れ・蔵・畑が点在し、かつて暮らしの風景が色濃く残っていた。一方で、南側の母屋によって離れへの光や風が遮られ、豊かな敷地環境を十分に活かしきれていなかった。本計画では、状態の良い離れを住居として再生し、南側の母屋を減築することで、光や風、庭との関係性を見直した。母屋跡には自由に子どもたちが走り回れる芝生庭を設け、室内からも風景が楽しめる大きな開口部を計画した。さらに、小下がりの居間や暖炉を住まいの中心に据えることで、家族が自然と集い、ゆったりとした時間を過ごせる居場所をつくり出した。

<工夫点> 既存の梁や架構を活かしながら間取りを大きく再編し、仕切られていた空間を連続的につなげることで、庭との一体感を感じられる空間とした。南側に広がる芝生庭に向けて大きな開口を設け、十分な採光・通風を確保するとともに、内外は緩やかに繋ぐ構成としている。LDKには-250mmの小下がり空間と暖炉を設け、視線と居場所に奥行きを生み出した。また、既存の梁を現しとして活かしながら、床や階段に無垢材を用いることで、建物が持つ記憶を継承した。新たな要素を加えながらも、敷地に残された風景や営みの痕跡を受け継ぎ、現代の家族にふさわしい住環境へと再編集した。

右記に該当する場合は✓(審査基準参照) ☒ a.ストックの有効活用 ☒ b.技能者不足への対応 ☐ c.地域・コミュニティの活性化 ☒ d.既存流通の活性化等

lw値	リフォーム前	リフォーム後	UA値	リフォーム後	性能向上等、特に配慮した事項
Is値					・家族のつながり・重伝建の文化と伝統の再生・災害復興・専門校生の育成 ・温熱性能UA=0.28、耐震、地震時に逃げ込むコア・格子による防火・県産材 ・温熱性能UA=0.28、耐震、地震時に逃げ込むコア・格子による防火・県産材

所在地 広島県尾道市 新築竣工年 1982年 築後年数 44年 施工期間 120日間

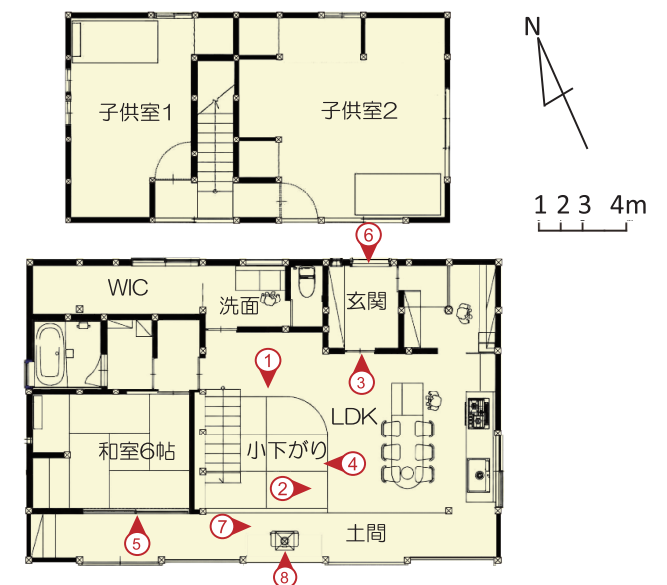
該当工事床面積 126.4㎡ / 総工事床面積 126.4㎡ 該当部分工事費区分 3,035万円 / 総工事費区分 3,035万円

居住者構成 65歳以上: 人 / 40~64歳: 人 / 15~39歳: 2人 / 14歳以下: 2人 / ペット: 人

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ ■階段/ ■玄関/ ■クローゼット/ □マンション共用部分/ □その他